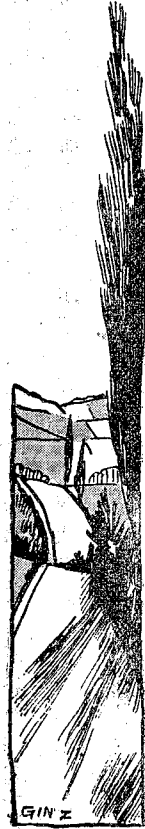


論説

迎年の辭

水野 鍊太郎



歳茲に改つて昭和十三年を迎へ新興の氣運方に八紘に滿つるを覺ゆ。

顧みれば客歲七月支那事變の勃發以來皇軍の嚮ふ所宛も燎原の火の如く連戰連勝著々戰果を收め其の首都南京亦既に我手に歸す此の如く外に在つては皇軍の威武支那全土を壓するあり内に在つては國を擧げて協心戮力銃後の護りに當り出征の兵士をして後顧の憂なからしめ戰時資源の充實に努めて遺憾なきを期しつゝあるが如き内外相呼應して一糸亂れざる皇國の勇姿は眞に驚嘆措く能はざるものがある。

今次の支那事變に處する帝國の目的は支那の暴戾を徹底的に膺懲して其の迷夢を覺醒し以て東

洋の平和を確立せんとするに在り其の規模の大なる其の意義の深き世界史上洵に稀に觀る大事業である随つて今後更に一層堅忍持久の膽を固めて國民精神の作興に努め經濟力の増進に力を致し如何なる艱難の重なり來たるとも克く之に克ち之に耐へて彌が上にも皇運を扶翼するの方策を講ぜねばならぬのである。

之が爲には政治に經濟に教育に産業に將又國民生活に關係する所極めて廣汎に涉るべきは勿論であるが、試みに交通方面に就いて之を考ふるも道路の擴築改良の殊に最も急なるを感ずるのである。

即ち國道府縣道の道路網の設定、路線の整理、構造の改善、標識の設備、電柱、郵便函等路面工作物及び地下埋設物の整理の如き著々進捗し大正八年以來計畫せられたる道路政策の遂行は多少の迂餘曲折ありたるも漸次其の歩武を進めつゝある状態を呈したるに今次長期交戦を建前としたる事變費の爲めに一般事業費に極度の緊縮節約が加へられ道路事業も著しく國費の削減を見るの形勢に立ち至つたのであるが、斯る情勢下に在つても交通上産業上將又國防上道路事業は之を等閑に付することは許されない所である故に國民が現地將兵に對して犠牲均衡の見地に立ち道路の修理維持保存等道路愛護の如き或は簡易鋪裝普及の如き奉仕的作業に従事して銃後の備に努力しなければならぬことは言ふまでもない。

重ねて言ふ支那事變は實に未曾有の國難である、之を事變の原因及び目的並に帝國の使命に鑑み

ると同時に國內諸般の情勢に察し國際關係の複雑微妙なるに稽へ戦後の經營に深慮をめぐらし世界の動向に徴して國力の推進に邁往しなければならぬ。

惟ふに國運の發暢は政治、經濟、思想等の各方面に互りて全體的に其の發現を期しなければならぬことは敢て多言を待つゝの要なきも茲に最も考慮すべきは東亞和平の基礎を確立せんが爲めに我帝國は滿洲及び北支地方と和協戮力して文化を普及し資源を開發するに在る、而して文化の普及資源の開發に關する方法は多種多様なるべきも先づ交通の便を拓くに在る、其の交通の便は滿支兩國の道路を我東京に通ぜしむることに在る、即ち東京、京城、新京及び北京の四京を連結する爲め一大幹線道路を建設し其の補助的又は培養的路線は此の四京連結道路を根幹とし全面的道路網を形成することである。

予曩年支那に旅行し其の道路の改良が意想外に急速なる發達を遂げつゝあるを看取したことである、此は彼の大陸政策の一としての國民生活に關する産業經濟の問題即ち民生主義の遂行に外ならないのである。又滿洲國が其の建國以來交通國策として道路の建設に努力し其の成績を挙げつゝあるは更らなり、曩日北京城の内外に五百キロに互る數條の新道路の完成を告げたるの報に接し欣快を禁ずる能はざる次第である。

我帝國戦後經營の一方策として滿支兩國と協力して綜合道路網の確立に關し其の實現の爲に本會が活躍せんことは予の最も希望する所である。

日支事變の目的が達成せられ我帝國の使命を實現するの日の遠きにあらざるべきを念ひ所懐の一端を叙して迎年の辭とす。

年 頭 所 感

安 藤 狂 四 郎

茲に、南京陥落後第一の新春を迎へ、度みて竇祚の無窮と國運の隆昌とを慶祝し奉る次第である。

昨夏、偶、蘆溝橋に發生したる支那側の不法射擊事件は、我方に於ては只管隱忍自重し専ら現地解決事件不擴大の方針を採れるにも拘らず、支那軍の暴戾挑戰愈募りて、在留邦人の生命財産の安固を期し難きに至り、遂に、全面的支那事變に擴大發展するに至つた。惟ふに、該事變の因由は、遠く國民政府の徹底的抗日教育に胚胎し、更に、我が國體と絶對に相容れざる容共政策にも關聯するが故に、率直に云へば、皇國日本が萬古不動の國體を擁護して大和民族の生成發展を期すると共に、我が國是たる日滿支三國の提携協力を實現して東洋永遠の平和を確立せんがためには、いづれの日にか、必ずや遭遇し打開すべき宿命的障礙であつたとも云へやう。従つて、皇軍一度起つや、忠勇無双、果敢迅速、北支に内蒙に、江南に、將又、制海權、制空權の確保に、到るところ、赫々たる武勳を樹て、優秀なる戰果を納めて、早